

# 第2回「水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」開催報告



技術普及部 副参事 土門 晋

## 1. はじめに

都市化の進展や経済の発展とともに劣化した水辺環境を再生する試みが世界各地で行われている。この再生には類似した気候や地形の地域で実施された事例を参考とすることは誰もが考えるところである。ヨーロッパ地域では水辺・流域再生の情報ネットワークであるECRR([www.ecrr.org](http://www.ecrr.org))が構築され情報が流通しているが、アジア地域では情報交換の場は少なく国外の水辺・流域再生の事例はあまり知られていない。

当センターではこのような国内外の情報交換の場としてワークショップやフォーラムを開催しているが、ここでは2005年10月27日に開催した「水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」について報告する。

## 2. 開催プログラム

「水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」プログラムは以下の通りである。

事例紹介1 中国:長江における再生事業 武漢市水務局 副局長/華中科技大学 姜 鉄兵
事例紹介2 フィリピン:パシグ川の再生プロジェクト パシグ川再生委員会 事務局長 ビンゲル H. B., グティエレス
事例紹介3 米国:エバークレースの再生事業 南フロリダ水管理局 エコシステム再生代表 ポール A. ワーナー
事例紹介4イタリア:イタリアにおける河川の再生における課題と今後の展開 イタリア河川再生センター ジュゼッペ ドダロ
事例紹介5 マレーシア:河川流域イニシアティブの取組み 地球環境センター事務 局長 ファイザル パリッシュ
事例紹介6 韓国:韓国における河川復元の事例 韓国建設技術研究院 河川研究部 前任研究員 アン ホンギョウ
全体討議 コーディネーター:金沢大学教授・東京大学 名誉教授 玉井 信行 上記講演者及び白川直樹 筑波大学講師 王義成中国水利水電科学研究院教授

## 3. 講演の概要

事例紹介1では中国、武漢市における水辺の環境整備として実施された漢口リバーフロント総合的洪水制御及び環境改善と再生事業について報告された。



パシグ川の再生

事例紹介2ではフィリピン、パシグ川の水質の再生に関わる整備事例の紹介があった。この事例では汚濁発生源の改善を中心に実施され、不法占拠などを含めた都市の再生も重要な課題となっている。

事例紹介3はアメリカ、エバークレースの事例で多数の利害関係者のいる中で進められている貴重種の保全と洪水のコントロールそして水資源利用について報告された。

事例紹介4はイタリアの河川再生ネットワークCIRFの活動事例が紹介された。河川の再生のために周辺の土地を購入し川幅を広くするなどの紹介が印象深い。



CIRF([www.cirf.org](http://www.cirf.org))の再生事例

事例紹介5ではマレーシアにおける河川流域イニシアティブの活動事例としてボルネオ島の開発により火災が頻発していたピート地帯の湿原再生などが紹介された。

事例紹介6では韓国における河川再生の現状として良才川、安陽川などの再生事例、またアメニティの整備として清溪川が紹介された。今後は流域管理の観点や、さらに生態学的な再生手法の追求を推進していくようであり今後の動向は興味深いと思われる。

総合討論は玉井信行先生をコーディネーターとして、情報交換の必要性、情報交換の場の望ましい形態、情報の共有などの議論が行われた。



総合討論

その結果、①情報の交換は大切でプロジェクトに関わる異なる分野の専門家の協力を仰ぐことが重要である。②人の交流が大事であり、現場の技術と研究の融合が同時に行われることが望ましい。③目標の共有、経験や資料、データの共有が重要であると議論がまとめられた。

## 4. まとめ

紹介された事例は気候や地形、事業の背景は異なるが「失われた川と人とのかわり」を再生することは共通である。そのため、国外の技術や事業のすすめ方を学び、国内の技術を世界に紹介するネットワークの構築が必要である。これは次項で述べるアジアの水辺環境情報ネットワークに関する国際会議の中で具体的に議論された。